



入学式(4月8日)

今年度88名の新入生を迎えました。吹奏楽部の演奏に合わせ、しっかりと足取りで堂々と入場しました。

「目標に向かって努力を継続する」「人との関わりを大切にする」という校長の式辞の後、生徒会役員と各部有志ら45名による校歌披露が行われ、新入生を温かく歓迎しました。先輩たちの歌声に、新入生たちは本吉響高校の一員としての自覚を新たにしたいと思えます。

一日も早く本吉響高校の生活に慣れ、一人ひとりが持つ豊かな才能をこの桜が丘で思う存分発揮して欲しいと心から願っています。



新入生代表による誓いの言葉



在校生による校歌披露

平成30年度進路状況

卒業者数		進学			就職			公務員	縁故・自己開拓
		大学	短大	専門学校等	管内	県内	県外		
男	47	2	0	11	15	10	3	4	1
女	58	2	6	19	18	7	5	0	2
計	105	4	6	30	33	17	8	4	3

昨年度の進路状況は左表のとおりです。

4年制大学では国際武道大学、江戸川大学、上武大学、東北芸術工科大学、短期大学では仙台青葉短期大学、聖和学園短期大学などに合格しました。

また、各種専修学校や准看護学校、高等技術専門校、公務員（宮城県職員・自衛隊）、民間就職など、生徒一人ひとりの進路希望を高い割合で達成しております。

餃子で楽しく日中交流

去る1月26日、本吉町内にあるエース産業で働く中国人研修生を招いて交流会を開催、家庭クラブ員と一緒に本場中国の餃子づくりを楽しみました。エース産業社長の星要一さんは本校の同窓生で地域交流に少しでも役に立てればと、全面的にご協力いただきました。小麦粉を水で練り餃子の皮から作るのは皆初めての体験、コツをつかむまで結構時間がかかりました。本場の餃子は水餃子を中心とのこと。とても美味しい一日でした。



新転任者を紹介します

教 頭	小野寺文男(総合教育センターより)
教 諭	高橋 武(志津川高校より)
教 諭	高橋 朋美(秋田県立湯沢翔北高校より)
教 諭	川井 毅(角田支援学校より)
教 諭	鈴木 彬大(利府高校より)
教 諭	朝倉 淳(利府高校より)
教 諭	千葉 留莉(新規採用)
教 諭	大沼 潤己(新規採用)
事務次長	菅野 政弘(気仙沼教育事務所より)
主 事	小山 彬帆(気仙沼市立階上中学校より)
非常勤講師	佐々木正太(東陵高校より)
非常勤講師	武田 瑞樹(新規採用)

宮城県本吉響高等学校

〒988-0341 宮城県気仙沼市本吉町津谷桜子2-24

電話 0226(42)2627 FAX0226(42)2628



校長式辞(全文)

朝晩の冷え込みも少しずつやわらぎ、本格的な春の訪れを感じさせる今日この頃、ここ桜が丘に今年もまた生けるものの全てが躍動する季節が巡って参りました。

この佳き日に、本校同窓会長 菅原誠様、教育振興会長 佐藤忠文様、PTA会長 佐藤達也様はじめ、多くの御来賓の御臨席、並びに保護者の皆様の御参列のもと、平成三十一年度宮城県本吉響高等学校入学式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない喜びであり、心から御礼申し上げます。

ただ今入学を許可いたしました八十八名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生、教職員一同、皆さんを心から歓迎いたします。今、皆さんの胸中は晴れて高校生になった喜びと希望に満ちあふれ、自らの未来に思いを巡らせていることと思います。この気持ちを決して忘れず充実した高校生活を送っていただきたいと思います。

本校は、昭和二十一年、旧本吉町の支援のもと、宮城県津谷農林学校として開校しました。以来、七十二年の歴史を数え、地域とともに歩む中で、津谷農林高等学校、津谷高等学校と校名を変え、平成十一年、総合学科への改編に伴い現在の本吉響高等学校となりました。卒業生は一万一千人を超え、同窓生は様々な分野で活躍しています。新入生の皆さんには、この輝かしい本校の歴史と伝統を受け継ぐとともに、新たな未来を創造していくことを期待したいと思います。

さて、本校では教育活動のキャッチフレーズとして、「メーク ハーモニー」を掲げており、それは「響生」、「知性」、「至誠」という三つの校訓に象徴されております。

「響生」とは、自然や人、そして宇宙と響き合い、調和しながら生きるという意味で、響高校の校名そのものです。

「知性」とは、二十一世紀の高度情報化社会を生き抜くための必須アイテムで、知の探求と発信が本校から始まるという決意を表すものです。また、「至誠」とは、誠の心をもって生きることは、いかなる社会でも人間が守るべき不易の徳であることを表すもので、津谷農林高校時代からの校訓を受け継ぐものです。

これらの校訓には教育目標とともに、人や自然と響き合う心、調和の心を持ち、豊かな感性を身につけた人になって欲しいという願いが込められています。皆さんひとりひとりが、将来社会人となり、郷土気仙沼の復興を支え、豊かで幸せな生活を送るために、この校訓のもとで、学ぶべきことをしっかり身につけて欲しいと思います。

高校生活のスタートに当たり、皆さんに私から二つのことを望みます。

一つ目は、「目標に向かって努力を継続する」ことです。

目標に向かって努力すると聞くと、月並みな話だと思うかもしれませんが、努力を継続するということは、口で言うほど簡単なことではありません。毎日生きていればいろいろな出来事があり、調子の良い時もあれば、気分の優れない日もあります。状況によっては何もする気にならないこともあります。皆さんには、学校生活の中で何か目標を立てたら、その実現に向けて、苦しさや悩み事などを言い訳にして、全く何も努力をしない日をできるだけつくらないように心がけてほしいのです。わかりやすい例で言うと、調子の良い日は何時間も家庭学習や部活動の練習をするのに、別の日は気分がのらないことを理由にまったくしないといったことでは、なかなか安定した成績や戦績を残せないことが、容易に想像されると思います。

何かで読んで私が印象に残っている言葉に、「悩んでいる人と運の強い人との違いは能力ではない。悩むだけで何もしないで終わった日の日数である。」というのがあります。誰も自分に自信がもてずに、不安になったり悩んだりするものですが、そんな時でも目標を見失わずに、調子が悪くても最低限やるべきことを、あらかじめ自分で決めておくなどの工夫をして、毎日継続して努力をしてもらいたいと思います。

二つ目は、「人との関わりを大切にする」ことです。

これからの高校生活の中で、皆さんには是非、コミュニケーション能力を身につけてほしいと思っています。そのために、学校生活のあらゆる場面で、人との関わりを大切にしてほしいと思います。教室でも部活動でも、まず、自分自身を大切に、それと同じくらい、周りの人も大切にしてください。その上で、相手と直接向かい合い、画面上の文字に頼ることなく、相手の目や表情をよく見て、自分の思いを自分自身の声で伝え、相手の思いを自分自身の耳で聞き互いに理解し合いながら、様々なことに共に協力して対応していく経験を、今のうちにできるだけたくさん積んでほしいのです。

人は決してひとりでは生きていけません。思いやりと感謝の心をもって、お互いを認め合い、ともに成長しあえる多くの仲間達と、充実した高校生活を送ってほしいと思っています。

最後になりましたが、保護者の皆様には、お子様の御入学誠におめでとうございます。高校の三年間は、子どもから大人へと成長する多感な時期であり、悩みも多くなろうかと存じます。教職員一同、御家庭と常に情報を共有しながら全力でお子様の高校生活を支援してまいりますので、御家庭におきましても、お子様の成長を見守っていただきますとともに、本校の教育活動に御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

新入生の皆さんが、本吉響高生として誇りを持ち、充実した高校生活を送る中で、立派に成長できますことを祈念し式辞といたします。

平成三十一年四月八日

宮城県本吉響高等学校長 佐々木 光久